

スーパーマーケット販売統計調査資料

2021年11月実績 速報版(パネル270)

10月実績 確報版(パネル270)

(2021年12月21日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
	一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具			
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2021年12月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2021年11月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)	2019年同月比 (全店)	2019年同月比 (既存店)
総売上高	92,580,258	100.0%	99.7%	98.5%	104.0%	101.9%
食品合計	83,246,698	89.9%	99.7%	98.3%	104.2%	102.0%
生鮮3部門合計	31,305,089	33.8%	98.3%	96.8%	103.3%	101.0%
青果	12,136,880	13.1%	97.8%	96.5%	103.2%	101.2%
水産	7,855,555	8.5%	98.8%	97.3%	102.6%	100.1%
畜産	11,312,654	12.2%	98.3%	96.8%	104.0%	101.7%
惣菜	9,540,031	10.3%	104.2%	102.3%	105.9%	103.2%
日配	18,267,586	19.7%	100.1%	98.8%	103.7%	101.9%
一般食品	24,133,993	26.1%	99.6%	98.4%	104.7%	102.8%
非食品	7,017,610	7.6%	98.8%	97.5%	103.1%	101.3%
その他	2,315,995	2.5%	95.5%	96.7%	90.7%	91.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,375,708	43	97.4%	96.8%
関東地方	33,633,214	73	100.2%	98.3%
中部地方	11,133,940	53	99.3%	98.1%
近畿地方	21,403,583	44	99.4%	98.7%
中国・四国地方	9,225,724	34	100.2%	98.1%
九州・沖縄地方	4,808,089	23	103.0%	103.6%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	604,276	46	95.1%	95.1%
4~10店舗	4,233,230	82	95.7%	95.2%
11~25店舗	8,671,843	52	99.9%	98.8%
26~50店舗	16,218,451	45	98.8%	98.0%
51店舗以上	62,852,457	45	100.2%	98.7%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	90,604,859	
総店舗数 (店舗)	8,298	店舗平均月商 (万円)	11,157	
総売場面積 (㎡)	13,800,422	売場 1㎡あたり売上高 (万円)	6.7	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

※前々年比集計 (既存店) : 前々年比と当月で保有店舗数に変化のない企業を対象

2021年12月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2021年10月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	96,135,789	100.0%	101.3%	100.2%
食品合計	87,572,169	91.1%	101.6%	100.3%
生鮮3部門合計	33,223,021	34.6%	99.2%	98.0%
青果	13,647,258	14.2%	98.6%	97.5%
水産	8,124,163	8.5%	100.2%	98.6%
畜産	11,451,600	11.9%	99.2%	98.3%
惣菜	10,113,407	10.5%	106.0%	103.9%
日配	19,410,190	20.2%	101.6%	100.6%
一般食品	24,825,552	25.8%	103.2%	101.6%
非食品	6,352,150	6.6%	97.0%	95.1%
その他	2,211,513	2.3%	95.5%	98.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,983,162	43	101.7%	101.3%
関東地方	35,090,203	73	101.4%	100.3%
中部地方	11,681,020	53	102.0%	99.6%
近畿地方	21,751,192	44	99.6%	98.8%
中国・四国地方	9,647,772	34	102.0%	100.1%
九州・沖縄地方	4,982,439	23	103.4%	104.0%

保有店舗数別集計

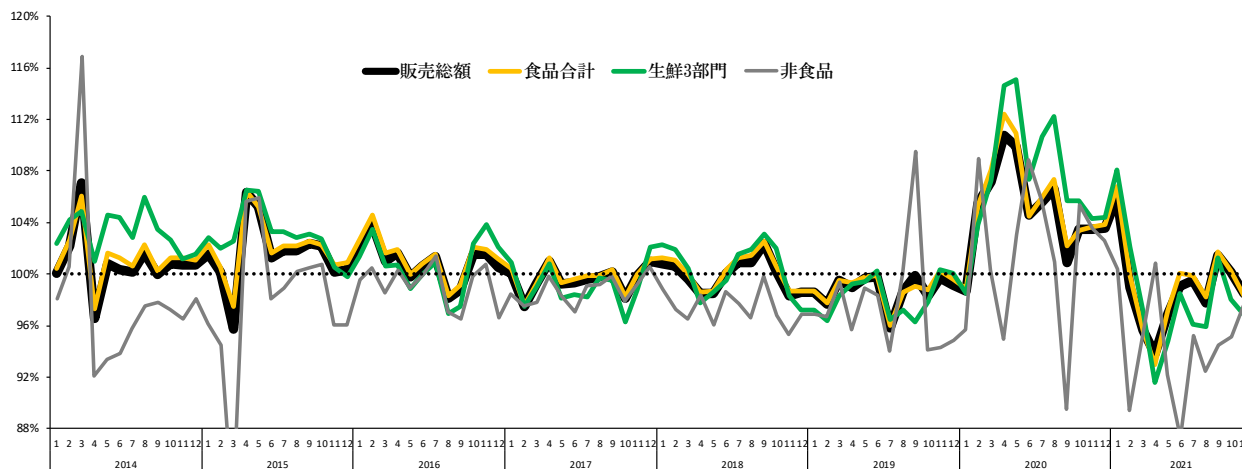
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	617,944	46	96.4%	96.2%
4~10店舗	4,428,639	82	97.1%	96.8%
11~25店舗	9,490,993	53	100.4%	100.1%
26~50店舗	16,478,053	44	100.5%	99.0%
51店舗以上	65,120,161	45	101.8%	100.7%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	94,146,802	
総店舗数 (店舗)	8,281	店舗平均月商 (万円)	11,609	
総売場面積 (㎡)	13,781,548	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.0	

※売上高は税抜金額

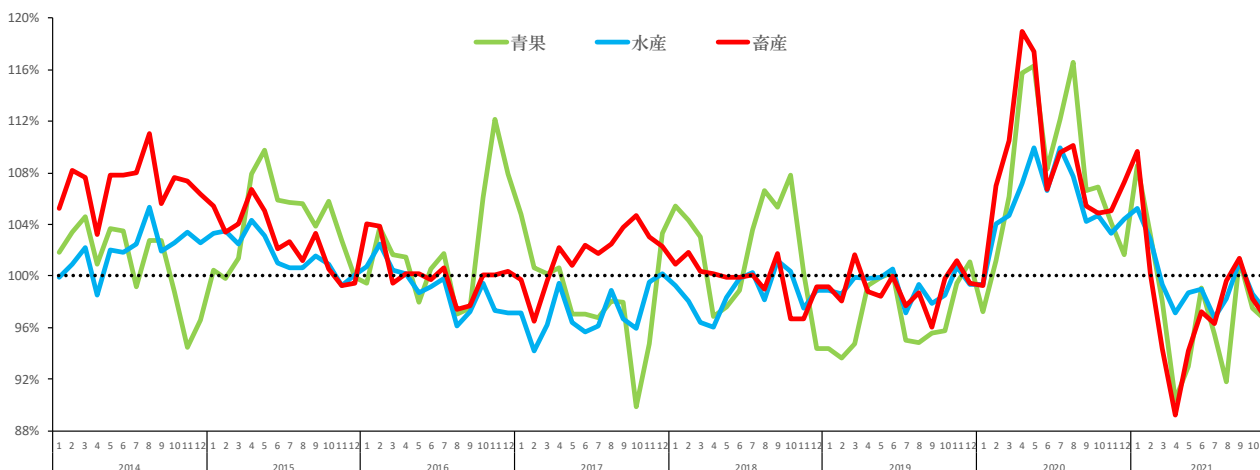
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比(既存店)推移 2014年1月～

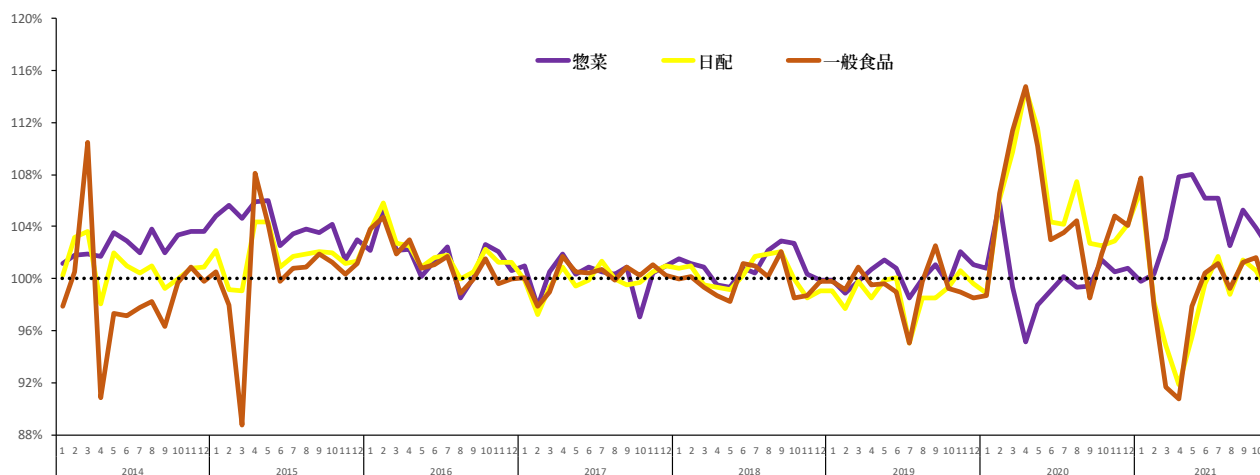
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2021年11月実績は速報版

2021年11月エリア別気候状況

気温の特徴：北日本でかなり高く、沖縄・奄美では低かった

上旬：北日本でかなり高く、東日本で高かった。一方、沖縄・奄美で低かった。

中旬：北日本でかなり高かった。一方、沖縄・奄美で低かった。

下旬：北日本で高かった。一方、沖縄・奄美で低かった。

2020年11月との比較：上旬は北日本と東日本でやや高く、中旬以降は北日本を除いてかなり低くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2021年11月			2021年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	2.0	2.3	1.2	0.4	2.1	0.5	1.6	0.2	0.7
太平洋側	2.0	2.0	0.9	0.6	1.8	0.4	1.4	0.2	0.5
東日本 日本海側	1.0	0.6	0.0	-0.4	2.8	0.8	1.4	-2.2	-0.8
太平洋側	1.2	0.3	0.0	-0.3	2.3	1.6	1.5	-2.0	-1.6
西日本 日本海側	0.0	-0.5	-0.1	-0.7	2.9	0.7	0.7	-3.4	-0.8
太平洋側	0.3	-0.5	-0.2	-0.6	2.6	1.1	0.9	-3.1	-1.3
沖縄・奄美	-0.6	-0.7	-0.6	0.5	1.7	0.9	-1.1	-2.4	-1.5

平年差

+2°C以上		-2°C以上	
+1°C以上		-1°C以上	

前年差

+2°C以上		-2°C以上	
+1°C以上		-1°C以上	

日照時間の特徴：東日本でかなり多かった

上旬：北日本日本海側と東日本で多かった。一方、北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。

中旬：北日本太平洋側と東・西日本でかなり多く、北日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。

下旬：沖縄・奄美でかなり少なかった。一方、東日本太平洋側と西日本で多かった。

2020年11月との比較：東日本日本海側で上旬は多く、中旬は少なかった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年11月			2021年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	123	111	93	74	124	69	49	-13	24
太平洋側	83	120	104	96	119	85	-13	1	19
東日本 日本海側	131	147	112	56	205	118	75	-58	-6
太平洋側	114	147	117	96	142	109	18	5	8
西日本 日本海側	99	146	110	102	158	84	-3	-12	26
太平洋側	104	131	116	102	135	112	2	-4	4
沖縄・奄美	86	135	50	87	131	118	-1	4	-68

平年差

平年比150%以上		平年比50%以下	
平年比125%~149%		平年比51%~75%	

前年差

+50%以上		-50%以下	
+25~49%		-25~-49%	

降水量の特徴：北日本、東日本日本海側と西日本太平洋側で多かった

上旬：北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側、東日本、西日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。

中旬：東日本太平洋側でかなり少なく、北日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美で少なかった。

下旬：北日本日本海側と西日本でかなり多く、北日本太平洋側と東日本日本海側で多かった。

2020年11月との比較：上旬は太平洋側で多く、下旬は全国的に多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年11月			2021年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	141	90	171	151	103	66	-10	-13	105
太平洋側	343	40	127	79	62	37	264	-22	90
東日本 日本海側	111	100	150	153	23	80	-42	77	70
太平洋側	192	3	104	59	15	9	133	-12	95
西日本 日本海側	109	32	207	83	52	42	26	-20	165
太平洋側	145	25	269	164	41	9	-19	-16	260
沖縄・奄美	128	44	100	57	34	35	71	10	65

平年差

平年比150%以上		平年比50%以下	
平年比125%~149%		平年比51%~75%	

前年差

+50%以上		-50%以下	
+25~49%		-25~-49%	

気象庁報道資料「11月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年（1991年～2020年）の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2021年12月調査結果（11月実績）
（2021年12月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

12月調査（11月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに小幅な悪化

11月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-1.3の40.4、見通し判断は前月から-2.3の35.4となり、ともに前月から小幅な悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIともに前月からマイナス幅を拡大した。内食需要の減少による買上点数減が見られた影響を受けた。畜産相場や水産相場の高値傾向により生鮮品仕入原価DIが11.4、原材料価格高騰による値上げにより食品仕入原価DIは14.8といずれも二桁プラス域で高止まりしている。一方で販売価格は横ばい、客単価DIはマイナス域で推移しており、収益DIを圧迫している。

カテゴリー動向調査では、緊急事態宣言解除による内食需要の落ち着きと前年との反動で、生鮮三品でDIのマイナス幅が大きくなった。また非食品カテゴリーは、衛生用品に前年からの反動減が続いている。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、すべての景況感が悪化をみせているが、小幅にとどまっており、これまでのトレンドに大きな変化はみられていない。（長期傾向についてはP11参照）

新規感染者数は落ち着いた状況が続いており、リモートワークの減少により夜間や週末の人流に変化がみられ、内食需要は前年に比べ減少していると見られている。一方で前々年同月比は堅調に推移しており、外食需要が完全に戻る状況には至っていないとみられる。また世界的な物価高騰の影響が徐々に国内にも波及しており、家計に与える影響が懸念されている。消費者によってバラツキの大きい内食需要の変化と、物価高などによる節約志向に対応しなければならず、難しい舵取りが求められている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：40.4 (-1.3) 前月：41.7	消費者購買意欲DI 当月：40.7 (-1.3) 前月：42.0	周辺地域 競合状況DI 当月：40.7 (-1.4) 前月：42.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：43.3 (-0.2) 前月：43.5
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：35.4 (-2.5) 前月：37.9	消費者購買意欲DI 当月：38.9 (-1.4) 前月：40.3	周辺地域 競合状況DI 当月：38.6 (-1.4) 前月：40.0	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：41.9 (-0.4) 前月：42.3
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-14.6 (-5.4) 前月：-9.2	客単価DI 当月：-1.9 (-4.3) 前月：2.4	来客数DI 当月：-14.5 (-4.0) 前月：-10.5	
収益DI 当月：-15.0 (-6.8) 前月：-8.2	販売価格DI 当月：4.6 (+0.3) 前月：4.3	生鮮品仕入原価DI 当月：11.4 (+2.2) 前月：9.2	食品仕入原価DI 当月：14.8 (+3.7) 前月：11.1

カテゴリー動向

青果DI 当月：-19.2 (-1.6) 前月：-17.6	水産DI 当月：-13.5 (-4.3) 前月：-9.2	畜産DI 当月：-16.0 (-6.4) 前月：-9.6	
惣菜DI 当月：6.1 (-4.6) 前月：10.7	日配DI 当月：-7.4 (-6.7) 前月：-0.7	一般食品DI 当月：-9.2 (-8.3) 前月：-0.9	非食品DI 当月：-13.9 (+1.5) 前月：-15.4

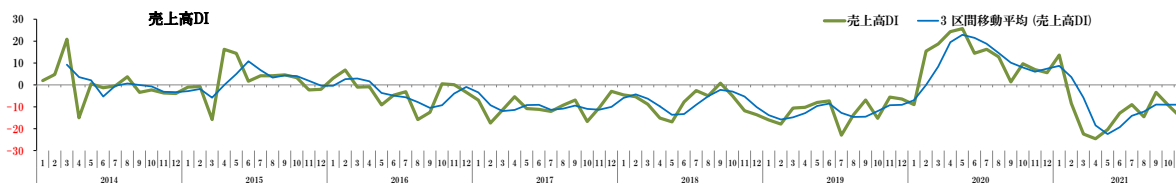
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

低下傾向が続き二桁マイナスに

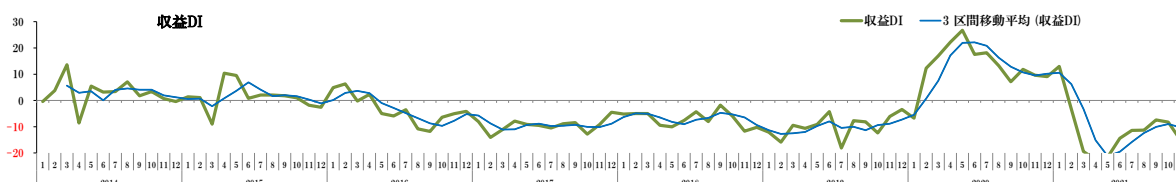
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	13.0	36.7	27.1	20.3	2.8	-9.2
売上高 (当月)	17.3	43.6	23.1	12.2	3.8	-14.6



2. 収益DI

低下傾向が続き二桁マイナスに

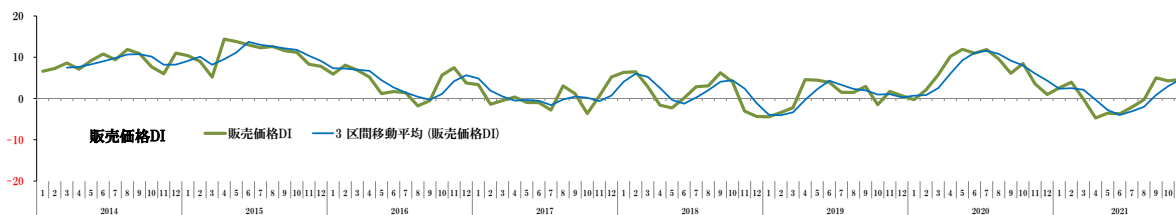
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	15.6	31.8	28.3	18.5	5.8	-8.2
収益 (当月)	15.8	43.4	27.6	11.2	2.0	-15.0



3. 販売価格DI

横ばい推移で3か月連続のプラス

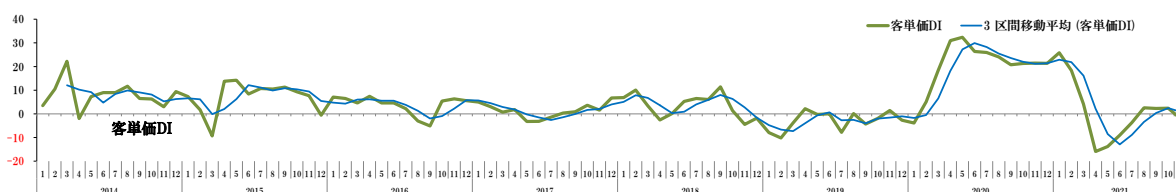
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	10.8	61.9	26.7	0.6	4.3
販売価格 (当月)	0.0	10.3	60.9	28.8	0.0	4.6



4. 客単価DI

ほぼ横ばい推移もわずかなマイナス

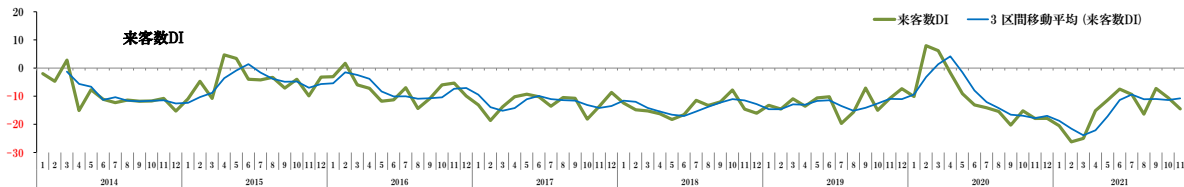
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	24.3	42.4	30.5	2.3	2.4
客単価 (当月)	1.3	29.7	45.8	21.9	1.3	-1.9



5. 来客数 DI

二桁マイナスで推移

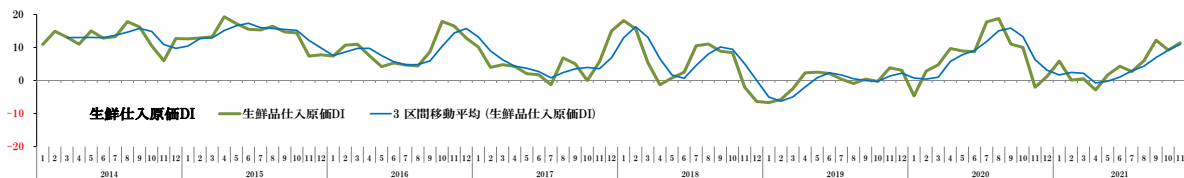
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	9.7	43.8	27.3	17.6	1.7	-10.5
来客数 (当月)	15.5	43.2	26.5	13.5	1.3	-14.5



6. 生鮮仕入原価 DI

小幅に上昇し二桁プラスで推移

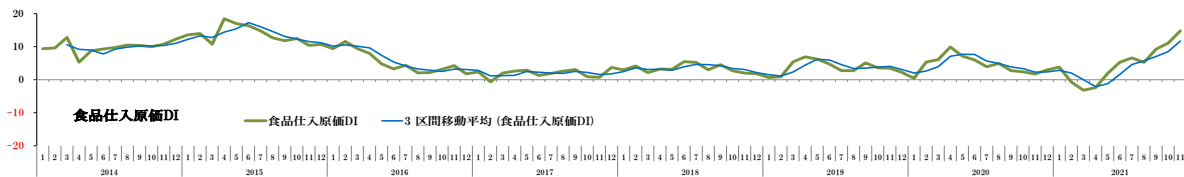
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.0	8.3	44.6	36.9	7.1	9.2
生鮮仕入原価 (当月)	1.3	12.6	33.8	43.7	8.6	11.4



7. 食品仕入原価 DI

さらに上昇し二桁プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.9	5.2	39.9	48.6	3.5	11.1
食品仕入原価 (当月)	2.0	4.6	33.6	52.0	7.9	14.8

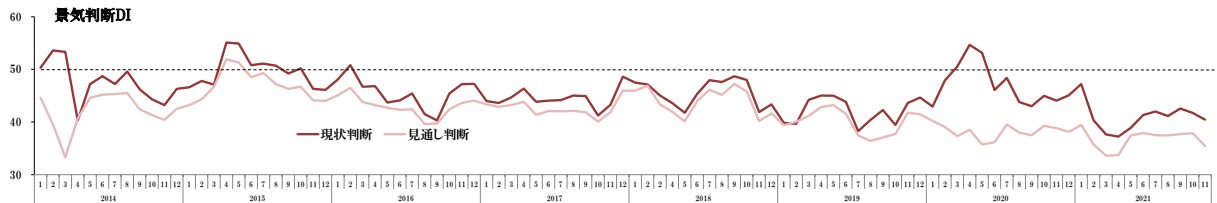


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断ともに小幅に悪化

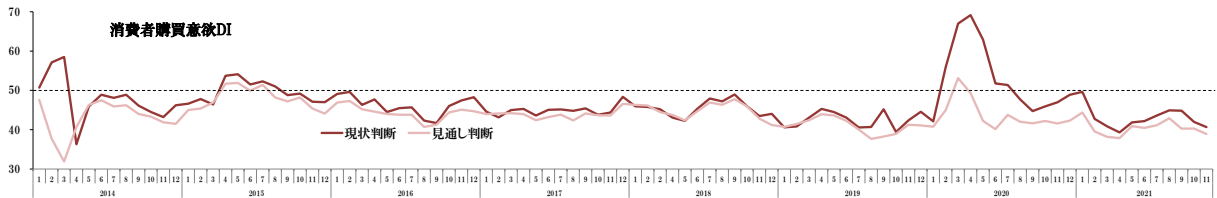
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	5.6	30.3	56.2	7.3	0.6	41.7
【現状】景況判断 (当月)	5.7	34.4	54.1	3.8	1.9	40.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	6.2	41.2	47.5	5.1	0.0	37.9
【見通し】景況判断 (当月)	6.3	48.7	41.8	3.2	0.0	35.4



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断ともに小幅に悪化

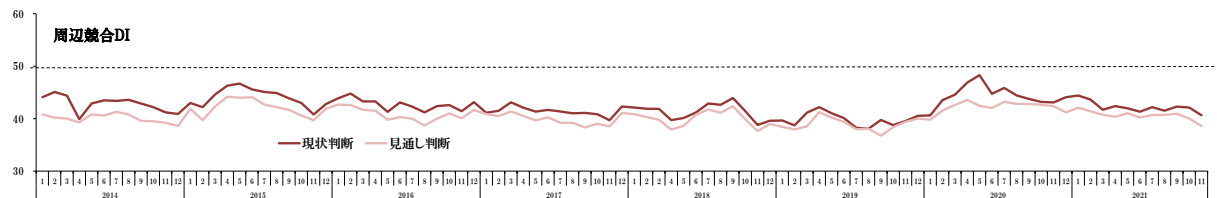
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.8	33.1	57.3	6.7	0.0	42.0
【現状】購買意欲 (当月)	2.5	36.1	58.2	2.5	0.6	40.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	3.4	36.5	55.6	4.5	0.0	40.3
【見通し】購買意欲 (当月)	1.9	43.0	52.5	2.5	0.0	38.9



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断ともに小幅に悪化

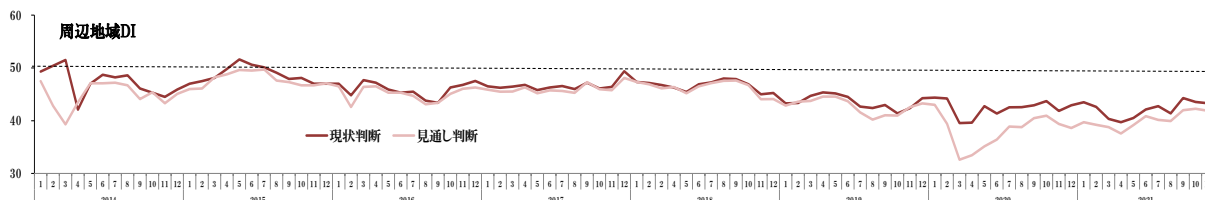
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.8	29.2	65.2	2.2	0.6	42.1
【現状】競合状況 (当月)	5.1	29.7	62.7	2.5	0.0	40.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.5	32.6	61.2	1.7	0.0	40.0
【見通し】競合状況 (当月)	6.3	34.8	57.0	1.9	0.0	38.6



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断ともに横ばい

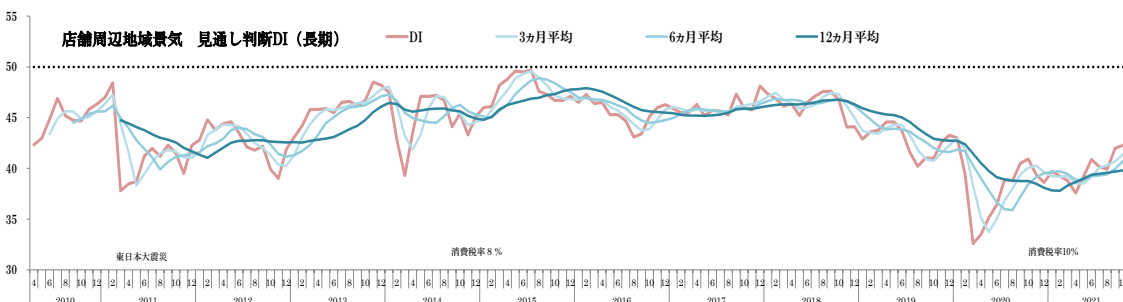
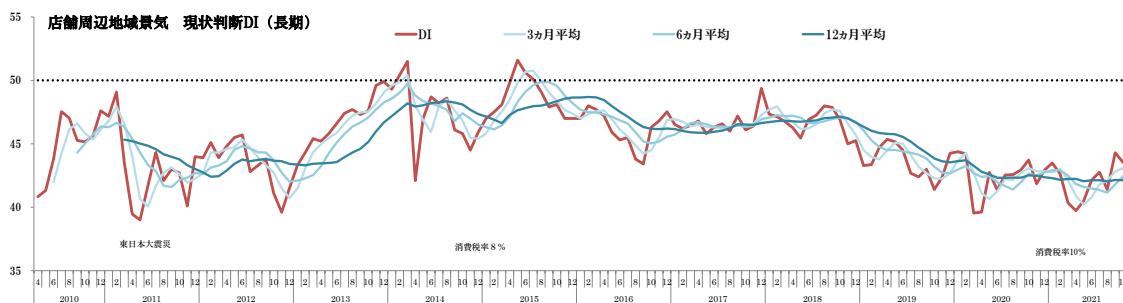
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	24.7	73.0	1.1	0.0	43.5
【現状】地域景気 (当月)	2.5	26.1	66.9	4.5	0.0	43.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.7	29.8	66.3	2.2	0.0	42.3
【見通し】地域景気 (当月)	2.5	31.8	61.1	4.5	0.0	41.9



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

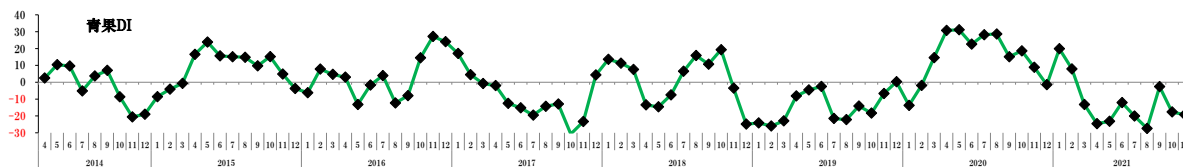
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月に大幅に悪化したのが、5月から10月まで持ち直しの動きが続いた。その後21年2月からは悪化するも、5月以降は小幅ながら改善傾向が続いている。その後、9月に大幅な上昇をみせ、各移動平均線を上抜きし、上昇トレンド入りを示唆している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-19.2（不調）

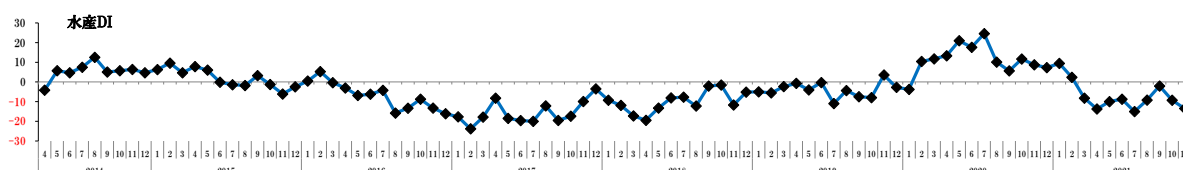
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	22.5	39.9	26.0	8.7	2.9	-17.6
青果（当月）	21.7	47.4	18.4	11.2	1.3	-19.2



青果は葉物を中心に相場安傾向で単価が下落、点数も伸び悩んだ。飲食店など業務用需要に回復傾向がみられている。ネギや白菜、菌類をはじめとする鍋物関連の動きは、上旬は気温が高めに推移し動きが悪かったが、中旬以降気温が平年並みになると好調に推移した店舗が多かった。タマネギやじゃがいもなど土物類は入荷不足や相場高の影響を受け、不調となった。国産果物はいちごやみかんが好調だが、柿やりんごは不調とするコメントが多かった。切花は前年から大きく売上を伸ばしている店舗が多い。

2. 水産DI：-13.5（不調）

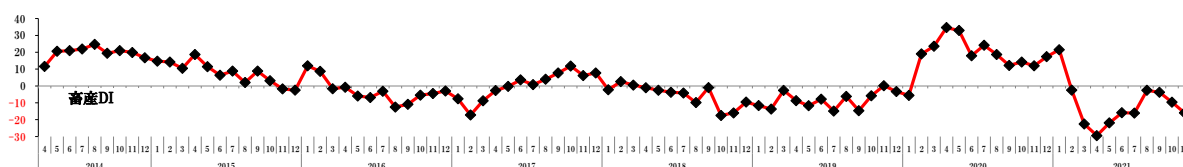
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.5	47.4	25.4	13.9	5.8	-9.2
水産（当月）	11.8	50.7	21.7	11.2	4.6	-13.5



生魚の入荷が不安定なことに加え、漁船の燃料高騰などもあり相場高となっており、販売に苦勞した店舗が多かった。タラや牡蠣など鍋関連商材は、中旬以降動きがよかった。輸入魚介類(鮭・えび・タコなど)や珍味の価格上昇が目立ち、販売数量を落とした店舗が多い。戻りカツオは前年に比べ水揚量が回復し好調な販売動向となった。緊急事態宣言解除により週末を中心に内食需要が落ち着き、刺身類はやや低調、冷凍加工品も伸び悩んだ店舗が多い。

3. 畜産DI：-16.0（不調）

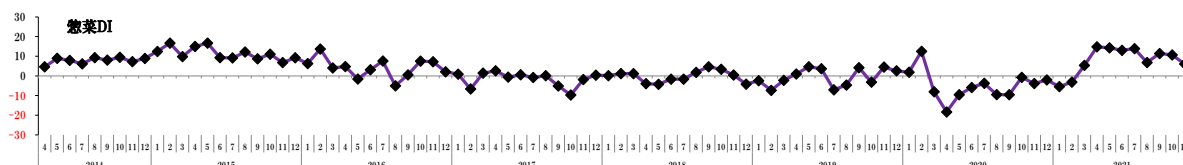
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	13.2	37.9	27.0	17.8	4.0	-9.6
畜産（当月）	16.4	46.1	26.3	7.2	3.9	-16.0



緊急事態宣言解除による内食需要の落ち着きに加え、国内産、輸入品共に価格の高騰が続いており、販促も打ちにくく、伸び悩んだ。国産牛、輸入牛ともに価格上昇が続き動きが悪く、なかでも和牛など高単価商品のが不調となった。豚肉や鶏肉は鍋需要を中心に回復傾向がみられた。ハム・ソーセージなど加工肉は前年好調の反動で不振とする店舗が多い。

4. 惣菜DI：6.1（やや好調）

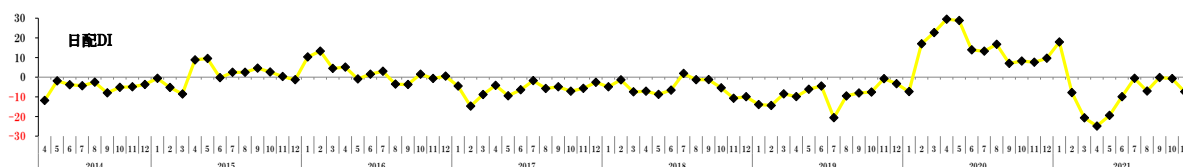
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.5	15.0	31.2	35.8	14.5	10.7
惣菜（当月）	3.4	18.2	37.8	31.8	8.8	6.1



緊急事態宣言解除による通勤の再開などで夕方以降の人流が増加し、夜間売上が回復した店舗がみられた。寿司類は引き続き好調、油脂類の値上げにより家庭での調理を避けるためか、揚げ物類が好調とのコメントが多い。近場への行楽や、小規模イベントの再開により、弁当類も好調に推移。引き続き、家飲み用の、焼鳥やつまみ類も堅調に推移している。正月のおせち予約注文が好調とのコメントが多い。

5. 日配DI：-7.4（やや不調）

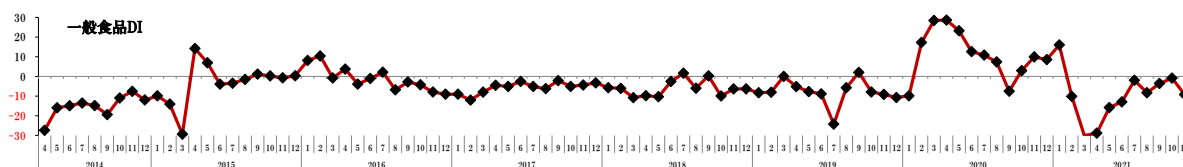
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	7.4	26.3	36.0	22.3	8.0	-0.7
日配（当月）	9.2	36.6	35.3	12.4	6.5	-7.4



前年に比べ内食需要に減少傾向がみられ、全般的に買上点数が伸び悩んだ。利便性が定着した冷凍食品や、デザート類は引き続き好調に推移した。気温が低下した地域では、和日配は、こんにやく、練物、豆腐など鍋物関連商材が急回復した店舗が多い。前年好調だった納豆などの発酵食品は反動減もみられているが、豆乳やアーモンドミルクはメディア報道により特需がみられた。漬物は青果の相場安の影響もあり伸び悩んだ。

6. 一般食品：-9.2（やや不調）

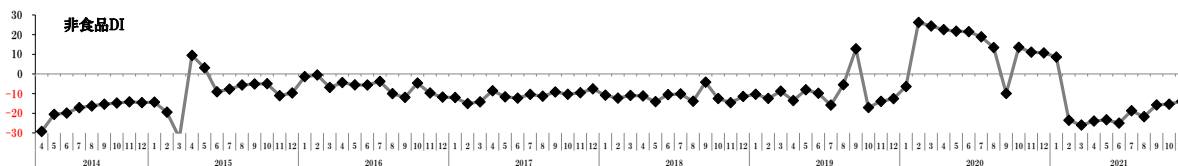
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	7.4	25.1	38.3	21.7	7.4	-0.9
一般食品（当月）	11.2	39.5	29.6	14.5	5.3	-9.2



緊急事態宣言が解除されたことで内食需要に落ち着きがみられ、保存性の高い食品(カップ麺、パスタなどの乾麺類、レトルト類、缶詰など)は伸び悩んだ。値上げのあった油や調味料は単価上昇となり好調に推移した。上旬は気温が高く推移したことで水、飲料が好調。中旬以降はホットメニューに動きがみられた。家飲み需要は引き続き堅調に推移しており、酒類や珍味などのつまみ類は引き続き好調に推移した。新米の動きが悪いとのコメントがみられた。飲食店など業務用の需要に回復傾向がみられている。

7. 非食品 DI：-13.9（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	21.1	33.9	33.3	8.8	2.9	-15.4
非食品（当月）	21.2	31.1	33.1	11.3	3.3	-13.9



マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品で特需となった前年からの反動が続いている。ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品についても反動減が大きい。日用雑貨、家庭雑貨も前年並みにとどまった店舗が多い。値上げのあったタバコ類に回復傾向がみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2021年12月調査（11月実績）キーワード TOP3

1. 原材料価格の上昇
2. 巣ごもり需要減少、業務用需要回復
3. 年末年始予約好調

（参考）2020年12月調査（11月実績）キーワード TOP3

1. 家庭内調理需要の高まり
2. 青果相場安
3. ギフト、年末予約好調

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

11月実績速報版 158社
 10月実績確報版 178社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp